

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地													
日本電子専門学校		昭和51年9月10日		古賀 稔邦		〒169-8522 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761													
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地													
学校法人電子学園		昭和38年12月17日		多 忠貴		〒169-8522 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761													
分野		認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士											
工業		工業専門課程		Webデザイン科		平成19年文部科学大臣告示第20号		-											
学科の目的		商用ホームページ(以下、Webサイト)の制作において、プロジェクトを円滑に進めるためのコミュニケーションが図れ、依頼者(以下、クライアント)の要望に応じたマーケティング・調査分析に基づく企画提案ができ、Web標準に準拠したマルチデバイスで利用者(以下、ユーザー)が心地よく閲覧できるWebサイトの表現や実装ができるWebクリエイターを育成する。																	
認定年月日		平成 26年 3月 31日																	
修業年限		昼夜		講義		演習		実習		実験		実技							
2年		昼間		1710時間		870時間		0時間		840時間		0時間							
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数		単位時間							
80人		46人		7人		4人		7人		11人									
学期制度		■前期: 4月1日~9月30日 ■後期: 10月1日~3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価基準は、90点以上を秀、80点以上90点未満を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、59点以下を不可とする。 成績評価は、試験、平常の成績、成果物等により行う。													
長期休み		■学年始め: 4月 1日 ■夏季: 8月1日~9月10日 ■冬季: 12月21日~1月9日 ■春季: 3月21日~4月6日 ■学年末: 3月31日		卒業・進級条件		■卒業条件 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、卒業学年までに履修しなければならない科目を修得(成績評価が可以上)した者。 卒業条件に該当しない者は、原級留置とする。 ■進級条件 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、当該学年までに履修しなければならない科目を修得(成績評価が可以上)した者。													
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談、自宅訪問、保護者連携 電話・メール連絡		課外活動		■課外活動の種類 ・体育祭実行委員会 ・学園祭実行委員会 ・新宿警察主催ボランティア活動 ・作品発表展示会開催 ・各種技能大会、コンテスト応募、各種展示会見学 ■サークル活動: 有													
就職等の状況※2		■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) ミツエーリンクス、メンバーズ、あとらす二十一等、Web制作会社 ■就職指導内容 キャリアセンターが、業界の求人獲得に努め、合同企業説明会や校内入社試験を実施している。 各クラス担当のキャリアサポーターとクラス担任を中心とした、組織的な学生指導体制による就職指導を行っている。 ■卒業生数 : 20 人 ■就職希望者数 : 20 人 ■就職者数 : 18 人 ■就職率 : 90.0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 90.0 % ■その他 ・進学者数: 0人  (平成 28 年度卒業生に関する平成29年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報デザイン試験 初級</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>20人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄 第54回技能五輪全国大会 銅賞 第11回若年者ものづくり競技大会 金賞、銀賞						資格・検定名	種	受験者数	合格者数	情報デザイン試験 初級	③	20人	20人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																
情報デザイン試験 初級	③	20人	20人																
中途退学の現状		■中途退学者 3名 平成28年4月1日時点において、在学者50名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者47名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学習上の理由、健康上の理由  ■中退防止・中退者支援のための取組 担任制、キャリアセンターサポート体制、新入生準備教育、学習目標設定・管理、個人面談、保護者連携、出席管理、学生相談、カウンセリング、自宅訪問		■中退率 6%															
経済的支援制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・電子学園特別奨学生制度(本校専願者で、学業・人物共に優秀であり、就学に際して経済的事情を有する方を対象) ・成績特待生制度(本校専願者で、高等学校進学用調査書の評定平均が本校の基準を満たす方を対象) ・試験特待生制度(本校専願者の方が対象) ・資格特待生制度(本校専願者で、本校指定の資格を取得している方が対象) ・美術特待生制度(本校専願者で、本校指定の作品を提出できる方が対象) ・親族入学優遇制度(入学者の親族が、電子学園の在校生または卒業生である方が対象)																	

第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 有 <a href="http://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/third-party-evaluation.html">http://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/third-party-evaluation.html</a>
当該学科の ホームページ URL	<a href="http://www.jec.ac.jp/course/design/aw/">http://www.jec.ac.jp/course/design/aw/</a>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会は、卒業生の就業先の業界における人材の専門性に関する動向、国または地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などを十分に把握、分析した上で、本校の専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目の開設または授業内容・方法の改善・工夫等を行うなど、専攻分野に関する企業、関係施設、関係団体等の要請等を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施するための検討課題を協議・検討することを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育の管理部署(教育部、教務部)と各学科に対して中立的な位置付けとし、実践的な教育を行うために、経営や教育現場からの制約を受けない自由な検討が行えるものとする。

尚、教育課程の編成については、以下の過程に基づいて決定する。

- ① 学科教員により、今後の教育課程について検討し改善案を作成する。
- ② 教育課程編成委員会にて、学科からの改善案について各委員の専門的知見に基づく意見を伺う。
- ③ 教育課程編成委員会での意見を踏まえ、学科長及び教育部長を中心に最終案を作成し、校長の決裁で決定する。
- ④ 次の教育課程編成委員会にて、最終決定した教育課程を各委員へ報告する。

上記の教育課程を決定する過程については、学校関係者評価委員会においても報告・評価の対象とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年8月1日現在

名前	所属	任期	種別
満岡 秀一	OESF(Open Embedded Software Foundation)	H27/10/1~H29/9/30 (継続更新予定)	①
久山 和宣	株式会社ベースメントファクトリープロダクション	H27/10/1~H29/9/30 (継続更新予定)	③
古賀 稔邦	日本電子専門学校 校長	H27/10/1~H29/9/30 (継続更新予定)	
船山 世界	日本電子専門学校 副校長	H27/10/1~H29/9/30 (継続更新予定)	
杉浦 敦司	日本電子専門学校 教育部 部長	H27/10/1~H29/9/30 (継続更新予定)	
佐々木 卓美	日本電子専門学校 教務部 部長	H27/10/1~H29/9/30 (継続更新予定)	
高橋 陽介	日本電子専門学校 キャリアセンター センター長	H27/10/1~H29/9/30 (継続更新予定)	
小山内 靖美	日本電子専門学校 Webデザイン科 学科長	H27/10/1~H29/9/30 (継続更新予定)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

委員会は、原則として学期の切り替え時期(9月)及び、年度末(3月)の年2回は、必ず開催する。また、業界動向の変化や学科の状況等により、必要性に応じて適宜開催する。

(開催日時)

第1回 平成28年9月16日 14:00~16:00 開催

第2回 平成29年3月 3日 14:00~16:00 開催

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- ① 組織の活性化を目指すための制度や工夫をしてみようという意見より、Webデザイン科1&2年生で「写真撮影会イベント」を開催。ホームルームを活用して、1年生と2年生合同で新宿御苑にて撮影会を実施。リーダーを高めるために2年生イベントプロジェクトチームが運用し、チーム力を学ぶために1・2年生混合のグループとなって与えられたテーマにそって短時間で撮影を行いました。撮影終了後は教員が総評(褒める工夫)を行い、表彰式を行いました。
- ② AI(人工知能)技術、IoT技術などが注目されている。プロジェクト等で取り組んでみたらどうかという意見より、Webデザイン科1年生「デジタルファブリケーションワークショップ」を開催。インフォテックホールディングス株式会社様のご協力で、デジタルファブリケーションの工房を見学。また、「デジタルファブリケーションを活用したものづくり」というテーマで、レーザーカッターを使ったコースター作製のワークショップをチームで行いました。
- ③ ②の意見とともに他者と連携・協働しながら、チームで問題解決する機会をつくってみたらどうかという意見より、電子応用工学科×グラフィックデザイン科×Webデザイン科の3学科コラボでIoTのプロジェクトを発足しものづくりを開始。「IoT×一人暮らし」をテーマに、残量がわかるディスプレイとアプリを製作。7月に日本デザイン学会にて教員&学生で成果を発表。12月に開催された「Device2Cloudコンテスト」では、準優勝を獲得。
- ④ 強みである「フロントエンド力」をより強固なものにし、他校との差別化を図る必要があるという意見より、Webアプリケーション開発環境「Monaca」を活用し、HTML&CSS、JavaScriptのフロントエンド力を強化。2年生モバイル授業で制作したWebアプリ3本を渋谷ヒカリエ「College night」にて発表。College nightきっかけに、株式会社アシアル様の推薦により、国内初となるMonaca関連総合展示イベントに団体唯一の教育機関として出展しました。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

Web業界で活躍できるWebクリエイター育成のために、下記を踏まえた実習を企業と連携して行い、Web業界に必要なディレクションやWeb制作技術などの実践的能力を養うことを基本方針とする。

- ①クライアントの要望をヒヤリングするためのオリエンテーションから企画・モックアップ（外観デザインの試作）・最終の各段階で企業へのプレゼンテーションを実施し、コミュニケーション能力の向上につなげる。
- ②クライアントの要望に応じた企画立案ができるように、授業と実習を通してWeb制作会社で行われているマーケティング・調査分析の仕方について実践的な知識を習得する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

- ①Web制作企業から実案件（クライアントの要求）を元に課題が提示され、企画提案・Webサイト制作・プレゼンテーションまでのWebワークフローを通して実務能力を学ぶ。企画・モックアップ、実装、最終にて企業プレゼンテーションを行い、企業から指導を受けながらWebサイト制作を行う。
- ②コミュニティサイトを運営する企業から既存サイトを使った課題が提示され、ユーザビリティ評価、マーケティング観点より既存のサイトの問題点を洗い出し改善提案を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
進級制作	Web制作企業4社から実案件（クライアントの要求）を元にECサイトやコミュニケーションサイト、コーポレートサイトや教育システムの課題が提示され、企画・モックアップ・実装までのWebワークフローを通して実務能力を学ぶ。ステップごとに企業から指導を受けながらWebサイト制作を行う。	株式会社スナップ 株式会社カレンティア 株式会社フォーク 株式会社ディー・エヌ・エー
ユーザビリティ&アクセシビリティ	株式会社ウィルゲートが運営している暮らしをテーマにしてコミュニティサイトを課題にして、チームでユーザビリティ評価手法を用いて既存のサイトの問題点を洗い出し改善提案を行う。最終プレゼンでは、企業からフィードバックをもらい評価を受ける。	株式会社ウィルゲート

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教育課程編成委員会での意見やWeb業界の動向等を踏まえて、現在教員に不足している知識、技術、技能及び、教授法や教育的資質に関する下記①～③等の研修を、研修規程に則って行う。これまでは、Web制作関連団体が行っている研修の受講が主であったが、将来はWeb制作会社や団体から講師を招いたものや教員がWeb制作企業内で制作業務を担当するなど、Webデザイン科独自の研修なども計画的に行う。

- ①今後も益々利用者のネット環境が多様化・複雑化しているなかで、ユーザーに最適なWebサイトを制作するのに必要な最新の知識、技術、技能に関する研修。
- ②多くのWeb制作会社が注目しているユーザーが体験を通して新しい価値を生み出す「ユーザエクスペリエンス」の必要性和、それらを向上するための知識、技術、技能に関する研修。
- ③変化する学生（気質）に対応し、学生の学習意欲を高めるような、キャリアサポートや体験学習（ファシリテーションスキル）等の教育的資質に関する研修。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

講座名	対象	内容	期間
プロジェクトマネジメント基礎講座	学科教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトマネジメントとは：何を実現するためのものかを理解する</li> <li>・プロジェクト・リーダーに必要な視点：確認事項を明確にする</li> <li>・プロジェクトの実行：スムーズな進行と成果に向けて</li> </ul> <b>【企業連携】</b> 株式会社宣伝会議が企画した講座に対し、教員の専門分野の実務にも活用できる研修として実施した。	平成29年2月
企業広報講座	学科教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業を顔とした自社価値の示し方</li> <li>・グループの一体感を高める社内浸透のテクニック</li> <li>・企業・グループ単位の社外リレーションマネジメント</li> <li>・日々の業務に追われないための広報戦略強化</li> </ul> <b>【企業連携】</b> 株式会社宣伝会議が企画した講座に対し、教員の専門分野の実務にも活用できる研修として実施した。	平成29年3月
カスタマージャーニーマップ基礎講座	学科教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活者を紐解くためにカスタマージャーニーを理解する</li> <li>・生活者と自社との関わりを俯瞰する カスタマージャーニーマップの作成</li> <li>・体験価値の高め方と戦略 カスタマージャーニーマップの活用事例</li> </ul> <b>【企業連携】</b> 株式会社宣伝会議が企画した講座に対し、教員の専門分野の実務にも活用できる研修として実施した。	平成29年3月

②指導力の修得・向上のための研修等

講座名	対象	内容	期間
H28年度夏季研修会 創造性開発講座 ＜発散技法編＞	全教員	創造思考技法の実践による革新的思考を啓発し、新しいアイデア、考え方、アプローチの仕方を実践に結びつけていくために必要な実践思考能力とプレゼンテーションスキルを向上させる。 【企業連携】 株式会社ビーコンラーニングサービスと本校が企画し、教員の指導力向上に向けた研修として実施した。	平成28年8月27日
教授法研修	新人教員	教授法の重要性の理解に始まり、対人スキルとして「話法」のスキルを身に付けた上で、独自の戦略を立てられるようになることを目標としている。 【企業連携】 株式会社ビーフォーシーと本校が企画し、教員の指導力向上に向けた研修として実施した。	平成28年8月3日

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

講座名	対象	内容	期間
ペルソナ、シナリオ、 UI、UX	学科教員	Webサイト制作の上流工程で注目されている手法の習得 【企業連携】 アドビシステムズ株式会社が企画した講座に対し、教員の専門分野の実務にも活用できる研修として実施予定。	随時
マーケティング	学科教員	Webサイト制作の上流工程に必要な知識。 マーケティング実践講座、インターネットマーケティング講座、コンテンツマーケティング等の習得 【企業連携】 株式会社宣伝会議が企画した講座に対し、教員の専門分野の実務にも活用できる研修として実施予定。	随時
Webのトレンド	学科教員	業界の動向調査。 Webサイト制作のために必要な技術(トレンドやテクニック)に関わる内容 【企業連携】 実習等で連携する企業が企画した講座に対し、教員の専門分野の実務にも活用できる研修として実施予定。	随時

②指導力の修得・向上のための研修等

講座名	対象	内容	期間
H29年度夏季研修会 創造性開発講座 ＜収束技法編＞	全教員	創造思考技法の実践による革新的思考を啓発し、新しいアイデア、考え方、アプローチの仕方を実践に結びつけていくために必要な実践思考能力とプレゼンテーションスキルを向上させる。 【企業連携】 株式会社ビーコンラーニングサービスと本校が企画し、教員の指導力向上に向けた研修として実施予定。	平成29年8月
教授法研修	新人教員	教授法の重要性の理解に始まり、対人スキルとして「話法」のスキルを身に付けた上で、独自の戦略を立てられるようになることを目標としている。 【企業連携】 株式会社ビーフォーシーと本校が企画し、教員の指導力向上に向けた研修として実施予定。	平成29年8月
コーチング研修	学科教員	①相手の考えを知る傾聴スキル～話しやすい環境作り、肯定的な表現方法 ②さらに話を深める質問スキル～自ら考え動くための自発性の引き出し方 ③相手の存在を認める承認スキル～モチベーションを支えるほめ方と叱り方 【企業連携】 東京都専修学校各種学校協会が企画し、教員の指導力向上に向けた研修として実施予定。	平成29年8月

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校では、卒業生、保護者、高等学校教員、画像情報関係団体、地域住民、Web制作企業等、本校の関係者を評価委員として、学校関係者評価委員会(以下、評価委員会という。)を組織する。評価委員会では、本校の自己評価報告書にもとづき、学校の運営状況やWebデザイン科の教育状況、目標達成度、進路の状況、卒業生の産業界での活躍等、教育活動に関する自己評価結果を報告する。評価委員より、自己評価結果の評価を受け、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、Webデザイン科への理解促進や連携協力による今後の運営や教育の改善等を図ることを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育人人材像の周知、職業教育の特色、将来構想、学科教育目標
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、組織・意思決定機能、人事規程、教育活動の成果公開、情報システム化
(3) 教育活動	教育目標・育人人材像、教育達成レベル、実践的なカリキュラム、業界関連科目目標、キャリア教育、授業評価、職業教育、教員確保・育成、成績・単位基準、資格指導體制
(4) 学修成果	就職率、資格取得、ドロップアウト対策、卒業生・在校生の活躍、キャリア形成と教育改善
(5) 学生支援	就職指導體制、学生相談体制、学費支援体制、学生生活・健康管理、課外活動支援、保護者会、卒業生支援、関連分野と業界関係
(6) 教育環境	施設設備環境の維持・向上、学外実習・インターンシップ・海外研修体制、防災訓練
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、教育成果の公表、入学選考、学納金、資格・就職情報公開
(8) 財務	中・長期財務計画、予算・決算・収支計画、定期的な会計監査、事業(財務)情報公開
(9) 法令等の遵守	法令・設置基準の遵守、個人情報保護、自己点検・評価、自己評価・第三者評価の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	学校施設の教育資源の貢献、学生ボランティア活動支援
(11) 国際交流	留学生の受け入れ戦略、留学生の在籍管理と手続き、留学生の学修・生活支援体制、学習成果の発表

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

社会貢献・地域貢献に対する充実を図ることが必要との意見を受け、下記の取組みを行った。

- ・新宿警察が主体となるボランティア団体「シャイニングスターズ」に加盟し、平成28年度は153名の学生が活動に参加。貢献度の高い15名の学生が特別表彰を受けた。
- ・NPO 法人エコキャップ推進協会が推進するエコキャップ運動に学生を中心として全教職員が協力。平成28年度は7,009個(16.30kg)を協会に提供した。
- ・地域住民を対象とした公開講座を実施。平成28年度は、パソコン初心者向けに「かんたん年賀状作成講座」を実施した。

## (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年8月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
石本 則子	株式会社スタジオフェイク	H29/5/1～H31/4/30	企業
井沢 祐	株式会社スタジオフェイク	H29/5/1～H31/4/30	企業
内田 昌宏	株式会社 ラック	H29/5/1～H31/4/30	企業
乗浜 誠二	株式会社 ナレッジコンサルタント	H29/5/1～H31/4/30	企業
舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン	H29/5/1～H31/4/30	企業
新 和也	オートデスク株式会社	H29/5/1～H31/4/30	企業
浅賀 央起	株式会社びえろ	H29/5/1～H31/4/30	企業
川崎 紀弘	株式会社AZホールディングス	H29/5/1～H31/4/30	企業
渡辺 登	合同会社ワタナベ技研	H29/5/1～H31/4/30	企業
満岡 秀一	一般社団法人 Open Embedded Software Foundation	H29/5/1～H31/4/30	業界団体
宮井 あゆみ	公益財団法人画像情報教育振興協会	H29/5/1～H31/4/30	業界団体
中台 浩正	東京商工会議所 新宿支部	H29/5/1～H31/4/30	業界団体
原 洋一	一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会	H29/5/1～H31/4/30	業界団体
米井 翔	一般社団法人 組込みシステム技術協会	H29/5/1～H31/4/30	業界団体
勝間田 清一	日本大学 生物資源科学部	H29/5/1～H31/4/30	大学
藤浪 優	株式会社ウィザス	H28/6/1～H30/3/30	高等学校
松下 秀房	目白研心中学校・高等学校	H28/6/1～H30/3/30	高等学校
沼田 宏	株式会社インターカルト日本語学校	H29/5/1～H31/4/30	日本語学校
小澤 博太郎	百人町西町会	H29/5/1～H31/4/30	地域住民
谷 伸城	株式会社アプリケーション プロダクト	H29/5/1～H31/4/30	卒業生
中山 秀昭	日本電子専門学校同窓会	H29/5/1～H31/4/30	卒業生
二俣 久美		H29/5/1～H30/3/31	保護者
高橋 智子		H28/4/1～H30/3/31	保護者
藤本 香織		H29/5/1～H31/3/31	保護者
植村 美智子		H29/5/1～H32/3/31	保護者
清水 啓子		H29/5/1～H31/3/31	保護者
日比野 晴美		H29/5/1～H31/3/31	保護者
秋永 美穂		H26/10/28～H30/3/31	在校生
三浦 稚子		H29/5/1～H31/3/31	在校生
伊藤 史華		H29/5/1～H31/3/31	在校生
戸嶋 瑠奈		H29/5/1～H31/3/31	在校生
假野 紗希子		H29/5/1～H31/3/31	在校生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

## (5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページで公表(毎年9月1日に更新)

<http://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/stakeholder-assessment.html>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

理念・育成人材像といった教育的目標から施設設備・財務状況といった学校運営に至るまでの情報をホームページや入学案内書などの冊子に掲載するとともに、Webデザイン科の教育成果として、前期は「授業成果発表会」を、後期は、「進級・卒業作品発表会」に来場を促し、学科ブログで学科での取り組みを広く公開することによって、在校生・保護者、高等学校、卒業生が活躍する企業・業界、学校近隣の住民など、関係者の理解を深め連携及び協力の促進に資するために、積極的に情報を提供することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	本校について、教育理念、校長名、沿革
(2)各学科等の教育	学科紹介、カリキュラム、時間割
(3)教職員	組織図、教職員人数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	教育の仕組み、キャリア教育、産学連携
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、エクステンションプログラム、施設
(6)学生の生活支援	就職サポート、学生寮
(7)学生納付金・修学支援	学費サポート、納付金・時期、独自の奨学金制度
(8)学校の財務	貸借対照表、資金・消費収支計算書
(9)学校評価	自己点検評価、学校関係者評価、第三者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ、広報誌等の刊行物、その他(授業成果発表会、進級・卒業制作発表会、学科ニュース)

<http://www.jec.ac.jp>



## 授業科目等の概要

(工業専門課程 Webデザイン科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			就職活動リテラシー	ワークシートやグループワークを利用した体験型学習で、楽しみながら就職活動の準備を行う。 ① キャリア（職業人生）を理解して就職活動の動機を得る。 ② ワークショップ形式で自己分析を行い、就職活動で実際に使えるツール（文章・台本）に仕上げる。 ③ 就職活動に必要な各種情報を得る。	1前	30		○		○				○		
○			企画書制作&プレゼンテーション	目的に沿ったリサーチから発表までを通じ、企画書の作り方とコミュニケーション手段としてのプレゼンテーション手法を学ぶ。	1前	60		○		○				○		
○			Webデザイン基礎	Webサイトを作る上で必要なサイトの種類や特徴、サイト設計、情報整理、ページデザイン、画像と色彩、レイアウトなどの基本的なWebデザイン知識を学ぶ。	1前	30		○		○			○			
○			HTML&CSS実習	W3C規格に準拠したHTMLコーディングを理解し、Webサイトを制作する。 Web標準実装の際に抑えておくべきポイントやノウハウ、サイト作成ソフトウェア（Dreamweaver）の活用テクニックを習得する。 （使用アプリケーション：Atom, SublimeText, Dreamweaver）	1前	120				○	○				○	
○			色彩演習	ビジュアル表現における色の役割や色彩に関する基礎的な知識を身につけ、感情や状態を色で表す演習等を行う。色彩検定の取得を目指す。	1前	30		○			○				○	
○			グラフィック実習	ペイント系ソフトウェア（Photoshop）の基本操作を習得し、フォトタッチやWeb画像素材の制作、Webページデザインの制作を行う。また、ドロー系ソフトウェア（Illustrator）の基本操作を習得し、ベクトル画像の制作について習得する。 （使用アプリケーション：Photoshop, Illustrator）	1通	90				○	○				○	
○			JavaScript実習	ブラウザ側で動作するプログラミング言語であるJavaScriptを用いてプログラミングの基礎を学び、ページを動的に表現する演習を行う。 JavaScriptを使ったWebページにあるふるまい（動き）の作成方法やJavaScriptライブラリーの活用方法について学ぶ。	1通	90				○	○			○		
○			イラストレーション	イラストを描く上での基礎的な画材や紙の扱いを学習し作品を制作する。さらに平面や立体など既成概念にとらわれない様々な技法を学び、オリジナリティーあふれる作品の制作を目指す。	1通	120			○		○			○		

○		Webデザイン 発想法 I	Webデザイナーに必要な発想力を身につけるため、平面構成や動きの構成を学び、かたちの発想を導く実習を行う。自分でアイデアを生み出す力を身につける。	1 後	60			○	○									
○		サイト設計	Webサイト構築のワークフローと、Webサイトを制作する過程でつくられる各種ドキュメントの作り方について演習を通して学ぶ。	1 後	30			○	○									
○		Webアプリケーション制作 I	HTML&CSS&JavaScriptを使ったWebアプリケーションの作り方を学ぶ。HTML5ハイブリッドアプリ開発プラットフォーム「Monaca」を使用。	1 後	30				○	○								
○		情報デザイン I	人間中心デザインの考え方に即したWebデザイン設計をワークショップ形式で学ぶ。人間中心設計の概念やプロセスを学び、人間中心デザインに関するさまざまな手法の理解と実践方法の修得を目指す。発想からコンセプトデザイン手法、コンセプトやユーザー評価の方法まで、体系的に、演習を通して実践的に学ぶ。	1 後	90			○	△	○								
○		進級制作	連携しているWeb制作会社から実案件（クライアントの要求）を元に課題が提示され、オリエンテーションから企画、制作、プレゼンテーションまでの一連の流れを学習する。Webワークフローを通して、実務能力・技術力・表現力を身につける。	1 後	120			△		○	○							○
○		Webデザイン 発想法 II	Webデザインにおける快適なユーザーインターフェイスを実現するための発想力を身につける。基本的な動きや感覚などを表す言語を分析して再構築する演習を行なう。	2 前	60				○	○								○
○		Webライティング技法	Web媒体を活用した伝わる文章を理解しライティングスキルの必要性を理解する。閲覧者にとって読みやすい文章、わかりやすい文章の書き方について演習を通して学び、人に伝わる文章を学習する。	2 前	30				○	○								○
○		Webアプリケーション制作 II	Webアプリの企画から制作をチームで行う。ソースコードなどをチームで履歴を共有し制作するためにGitサービスを利用する。 HTML5ハイブリッドアプリ開発プラットフォーム「Monaca」を使用してWebアプリを制作。	2 前	90					○	○							○
○		情報デザイン II	①情報デザイン試験の取得を目指す。 ②インタフェースおよびインタラクションのデザイン手法について学ぶ。	2 前	60				○	△	○							○
○		ユーザビリティ&アクセシビリティ	企業課題をチームで問題解決を行う。 ① ユーザビリティ評価手法を用いて既存のサイトの問題点を洗い出し改善提案を行う。 ② 視覚障害者支援団体の協力を受けて、Webアクセシビリティの現状と問題点の理解を深める。 ③ UXを考慮したサービスデザインの提案	2 前	120			△		○	○							○
○		サーバーサイドプログラミング I	サーバーサイドプログラムであるPHPプログラムをPCで動かすための環境を整え、掲示板等を作りながらPHPプログラミングについて学ぶ。同時にデータベース（MySQL）を使った実践的な課題を行う。（Apatch, PHP, MySQL）	2 前	60					○	○							○

○	卒業制作	2年間の集大成として、Webを商用で必要としている企業や店舗、学校などをクライアントとし、学生個々の制作ジャンル（Webサイト、スマートフォンアプリ、Webシステム、ゲーム等）に沿った作品を制作する。クライアントの要求に応じて、事前調査、コンセプトメイキング、企画書制作、ユーザービリティ評価、確認、納品、最終プレゼンなど、実践的なWebクリエイターとして、一連の制作工程を踏まえた制作を行う。	2 後	150	△	○	○	○												
○	写真撮影・映像演出技法	カメラの使い方、写真撮影に関する知識を学び、広報誌やWebサイトに使用される写真を撮影するための実践的なテクニックを学ぶ。	2 後	60		○	○													
○	関連法規	Webデザイナーに必要な法律知識を学ぶ。著作権をはじめとする知的所有権、個人情報法、刑法の業務妨害などについて、報道等で取り上げられた裁判の事例を交えて学ぶ。	2 後	30		○	○													
○	Webマーケティング	Webマーケティングを取り巻く外部環境・市場動向や、ソーシャルメディア連携などによるWebマーケティング、企業におけるソーシャルメディアの活用方法などWebサイトの戦略的なビジネス活用について学ぶ。	2 後	30		○	○													
○	Webディレクション	スケジュール管理、リソース管理、コスト管理、運用管理などを含めて成果を上げるディレクションの仕方について学ぶ。	2 後	30		○	○													
○	広告デザイン	印刷メディアの広告表現デザインや、CMなどの広告映像の表現、Webを使った広告表現など実際の広告具体例を見ながら広告の表現技術を学ぶ。	2 後	30		○	○													
○	サーバーサイドプログラミングⅡ	CMSツールWordPressをサーバーにインストールする方法から、サイト構築のやり方を実践的に学ぶ。また、CakePHP、Laravelを使って簡単なオブジェクト指向スクリプト言語を習得する。	2 後	60			○	○												
合計			26科目	1710時間																

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件 「可」以上 (留意事項)	試験、提出課題、平常点を加味した成績評価において、全ての科目で	1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。